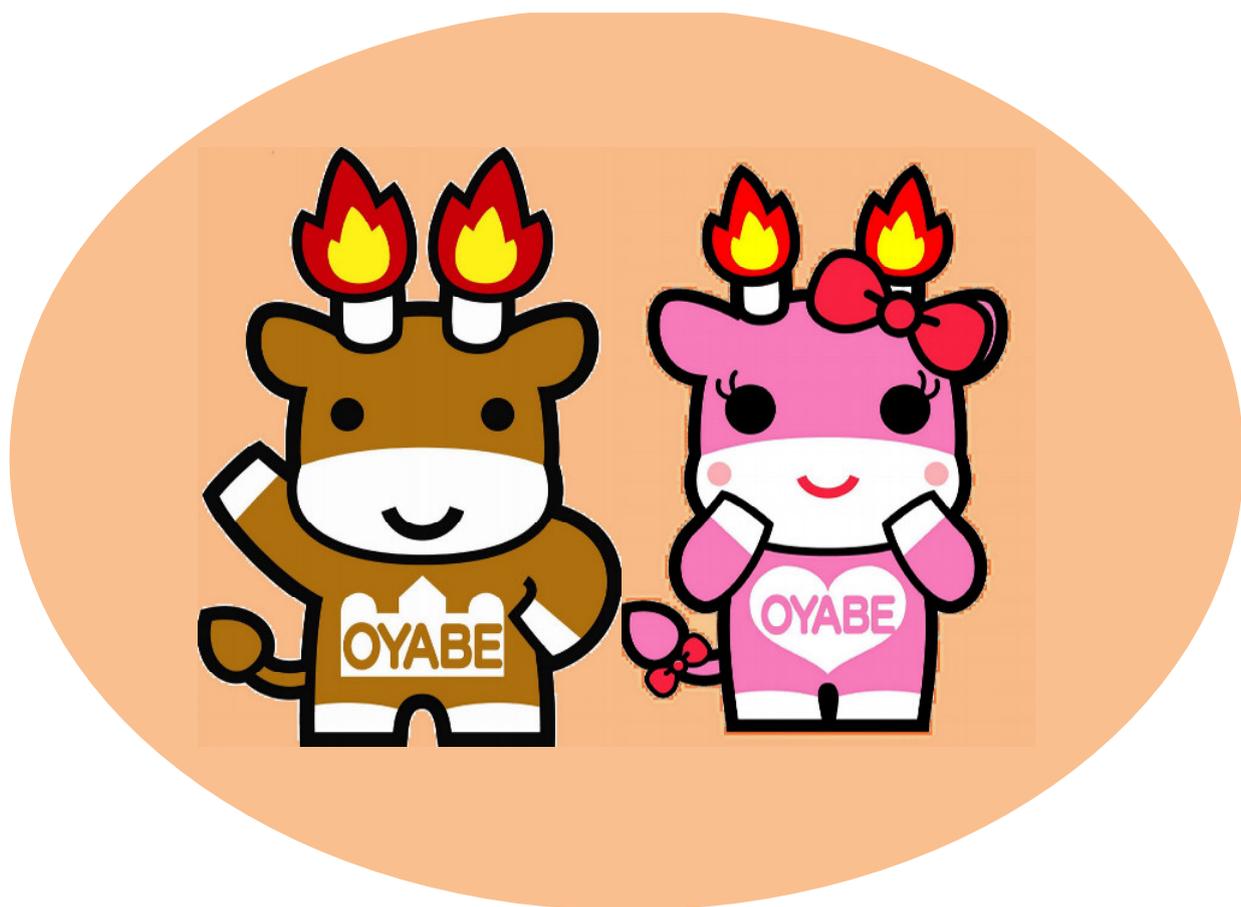


第10回小矢部市女性議会 報告書

女性が輝く街は元気になる！



小矢部市女性団体連絡協議会

目 次

発刊にあたって

小矢部市女性団体連絡協議会会長 嶋 田 幸 恵

小 矢 部 市 長 桜 井 森 夫

小矢部市議会議長 中 村 重 樹

第 10 回小矢部市女性議会報告 1

第 10 回小矢部市女性議会実施要綱 2

第 10 回小矢部市女性議員名簿 3

第 10 回小矢部市女性議会活動日程 4

委員会報告 10

第 10 回小矢部市女性議会一般質問 14

小矢部市政に対する要望について 35

小矢部市女性議会を終えて 40

—女性議員活動—

第10回小矢部市女性議会を開催して



小矢部市女性団体連絡協議会 会長 嶋田 幸恵

小矢部市女性団体連絡協議会では、女性の地位向上と社会的視野を広め、生活に密着した議題や女性ならではの視点より問題をとらえて市政に女性の声を反映させたいと平成9年に第1回女性議会が開かれ、今回第10回女性議会を実施いたしました。16名の女性議員を選出するにあたり、各種団体の方々には大変なご尽力をいただきありがとうございました。

第1回の平成9年から社会状況は大きく様変わりし、女性の社会進出及び子育て支援等、環境整備は少しずつ整えられつつあるとは思いますが、まだまだ女性の声を届ける必要があります。

15名の議員の方々には、総務・産業建設・民生文教と、3つの委員会に所属され、議題を見つけ、議論し、真剣に取り組んでいただきました。本会議におきましては、堂々と質問や提言をし、7項目の要望事項を決議いたしました。本会議に至るまでの市当局からの予算説明や現地視察など、大変貴重な経験ではなかったかと思えます。

また、同じ小矢部市に住んでいながら、いろいろ機会がなかったら出会うことがなかったかもしれない方々が出会われ、一つの課題に向かって議論し積み重ねていくことの大切さ、色々な素晴らしい「意見」に感動されたのではないのでしょうか。

今後とも、女性議員各位が貴重な体験と学習を生かし、各々の分野で益々のご活躍していただくことを願っております。

終わりにになりましたが、この女性議会を開催するにあたり、温かいご理解ご指導ご協力を賜りました桜井市長はじめ、市議会、市当局の皆様には心からお礼申し上げます。

発 刊 に よ せ て

小矢部市長 桜井 森 夫



現在の社会・経済情勢は、少子高齢化の進展、経済のグローバル化、情報通信の高度化並びに家族形態の多様化など急速に変化してきております。

これらの変化に対応しながら、市民と行政がそれぞれの役割を明確にしながら、未来に誇る小矢部市のまちづくりを進めていくには、すべての人々が、その個性と能力を十分に発揮し、共に責任を担う男女共同参画社会を実現

することが是非とも必要であります。

その意味においても、小矢部市女性団体連絡協議会の主催のもと、昨年7月から11月にかけて開催されました「第10回小矢部市女性議会」は、女性の視点から、広く市民の立場に立ち、直接市政に参画する機会として、誠に意義深いものであったと思っております。教育をはじめ、子育て支援、安全・安心、まちづくり、危機管理、観光、定住促進など、女性議員の皆さんから賜りました貴重なご意見やご提言は、小矢部市政が直面している課題を的確に捉えたものであり、今後の市政を運営していく上で大きな成果になると確信しております。

市では、平成25年3月に策定した「小矢部市男女共同参画プラン（第2次）」に基づき、より一層、家庭や職場、地域など、あらゆる分野で男女がともに参画し、対等な立場で考え、行動できる社会をめざして、市民と行政が一体となって取り組みを進めていきたいと思っております。

終わりに、今回の女性議会を契機として、女性の積極的な社会参画をご期待するとともに、小矢部市女性団体連絡協議会の今後ますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成26年3月

発刊のお祝い

小矢部市議会議長 中村重樹



小矢部市女性団体連絡協議会の皆様方には、日頃から市政の進展、女性の地位向上、地域社会の振興に絶大なるご尽力をいただいておりますことに、心から厚く御礼申し上げます。

今日の社会経済情勢は、かつて私どもが経験したことのない早さで刻々と変化をいたしております。

また、今や我が国は、少子高齢化・人口減少社会を迎えたとも言われており、人々のライフスタイルや価値観についても、多様化あるいは複雑化している状況であります。

このような社会状況にあって、住民ニーズを的確に把握し、これからのまちづくりに活かしていくためには、これまで以上に市民と行政とが連携を図り、互いに知恵を絞ることが重要であろうと考えております。

また、女性が、男性とともに、政治や経済、文化、地域社会など様々な分野に参画し、女性ならではの視点を大切に高い識見を発揮されることも、新しいまちづくりには不可欠であろうと考えております。

皆様方には、「第10回小矢部市女性議会」で得られた知識と経験を、それぞれの地域社会の中で十分に発揮されますことをご期待申し上げまして、お祝いのことばといたします。

平成26年3月

第 10 回

小矢部市女性議会報告

会期 平成25年7月12日（金）～

平成25年10月28日（月）

第10回小矢部市女性議会実施要綱

- 1 趣 旨 女性の地位向上と社会的視野を広め、生活に密着した課題や問題を捉え、市政への提言など、女性の声を市政に反映させる。
- 2 目 的 (1) 女性の市政に対する関心を深める。
(2) 議会制民主主義を学ぶ。
(3) 女性活動のリーダーを養成する。
- 3 主 催 小矢部市女性団体連絡協議会
- 4 共 催 小矢部市、小矢部市議会
- 5 後 援 小矢部市教育委員会、北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、北陸中日新聞
- 6 会 期 平成25年 7月12日(金) から
平成25年10月28日(月) まで
- 7 会 場 市議会議場・・・組織議会・本会議
第2委員会室・・・委員会・学習会
- 8 議員定数 16名
- 9 会議の構成 ◎組織議会 組織、市長市政方針の説明(H25.7.12)
◎委員会 ・総務常任委員会 随時
・民生文教常任委員会 随時
・産業建設常任委員会 随時
◎視 察 現地視察
◎学習会 地方自治、議会制民主主義及び市政に関する諸問題について
◎本会議 一般質問、委員長報告、決議(H25.10.28)
- 10 募 集 議員の募集は、次のとおり行う。
(1) 応募資格 市内在住の20歳以上の女性
(2) 申込受付 市市民協働課、小矢部市女性団体連絡協議会
(3) 募集期間 平成25年6月3日(月)～平成25年6月21日(金)
(4) 議員の決定 募集手続きから議員の決定までは、小矢部市女性団体連絡協議会が管轄する。
また、応募者数が定数を超えた場合は、小矢部市女性団体連絡協議会で組織する選考委員会で選考する。
(5) 申込書 別紙様式による。
- 11 事 務 会議運営の指導 市市民協働課及び市議会事務局
活動運営、庶務 小矢部市女性団体連絡協議会

第10回女性議会議員名簿

議席番号	氏名	ふりがな	委員会	議会役職	委員会職
1	佐野 美樹子	さの みきこ	産業建設		委員長
2	辻 喜代子	つじ きよこ	民生文教	副議長	
3	可部谷真由美	かべたに まゆみ	総務		
4	河合 千枝子	かわい ちえこ	総務	議長	
5	中富 貴美子	なかとみ きみこ	民生文教		委員長
6	宮崎 三保子	みやざき みほこ	民生文教		副委員長
7	成田 雅子	なりた まさこ	産業建設		
8	中井 由美子	なかい ゆみこ	総務		
9	林 智子	はやし ともこ	総務		委員長
10	多田 麗子	ただ れいこ	産業建設		
11	木屋 千恵子	きや ちえこ	総務		
12	田悟 敏子	でんご としこ	産業建設		副委員長
13	森川 時衣	もりかわ ときえ	民生文教		
14	稗田 佳美	ひえだ よしみ	総務		副委員長
15	福永 則子	ふくなが のりこ	民生文教	臨時議長	
16	長田 昌子	ながた まさこ	産業建設		

第10回小矢部市女性議会 活 動 日 程

当選証書付与式

第10回小矢部市女性議会

開 会 式

日時 平成25年7月12日（金）
午後1時30分
場所 小矢部市役所 議場

1 開 会

2 開会のあいさつ

小矢部市女性団体連絡協議会会長 嶋 田 幸 恵

3 市長祝辞

小矢部市長 桜 井 森 夫

4 市議会議長祝辞

小矢部市議会議長 中 村 重 樹

5 閉 会

議事日程第1号

平成25年7月12日(金)

午後2時開議

日程第1 仮議席の指定について

日程第2 議長選挙について

追加議事日程 第1号の追加

日程第3 議会運営に関する諸法令の準用について

日程第4 議席の指定について

日程第5 会議録署名議員の指名について

日程第6 会期の決定について

日程第7 副議長選挙について

日程第8 常任委員の選任について

日程第9 市政方針の説明について

全員学習会

日時 平成25年7月12日(金)

本会議終了後

場所 第2委員会室(3階)

- | | | |
|---|---------------|------------|
| 1 | 地方自治について | 総務課 佐野課長 |
| 2 | 議会制度について | 議事調査課 唐嶋課長 |
| 3 | 小矢部市の財政状況について | 財政課 栢元課長 |

市政に女性の声を

小矢部市女性議会 小矢部市
で議会
（富山新聞社後援）
写真Ⅱは12日、市役所
議場で開会し、生活に
密着した市政課題につ
いて議論をスタートさ
せた。会期は10月28日
まで。最終日に一般質
問を行い、市政に女性
の声を届ける。
公募の議員16人が出
席し、議長に河合千枝
子さん、副議長に辻喜
代子さんを選んだ。市
議会と同じ総務、民生
文教、産業建設の3常
任委員会の委員を選任
し、桜井森夫市長が今
年度当初予算に沿って
市政方針を説明した。
議員は委員会や視
察、学習会で論議を深



め、最終日の本会議に
臨む。開会式で市女性
団体連絡協議会の嶋田
幸恵会長があいさつ、
桜井市長、中村重樹市
議会議長が祝辞を述べ
た。
委員会の構成は次の
通り（◎は委員長、○
は副委員長）
▽総務 ◎林智子、○神田
佳美、可部谷真由美、河合千枝
子、中井由美子、木屋千恵子▽民
生文教 ◎中富貴美子、○

宮崎三保子、辻喜代子、森川時
衣、福永則子▽産業建設 ◎
佐野美樹子、○田悟敏子、成田
雅子、多田麗子、長田昌子

市政の課題を探る

議長 河合さん 副議長 辻さん

第10回小矢部市女性議会は
12日、市議会議場で開会した。
議員16人が議長、副議長を選
出し、桜井市長から市政方針
の説明を受けた。会期は10月
28日までの109日間。市政
への提言を通し、女性の地位
向上を目指す。北日本新聞社
後援。
市女性団体連絡協議会（嶋
田幸恵会長）が2年に1度開
催。議員は市内在住の20歳以
上

の女性から公募した。
開会式で嶋田会長があいさ
つ、桜井市長と中村重樹市議
会議長が祝辞を述べた。議長
に河合千枝子さん（田川）、
副議長に辻喜代子さん（経田）
を選び、総務、民生文教、産
業建設の3常任委員会の構成
を決めた。
閉会后、地方自治や議会制
度に関する学習会があり、
理解を深めた。今後、各常任
委での視察や審議を経て、最
終日に一般質問や決議を行
う。
▽総務常任委◎林智子、○神
田佳美、可部谷真由美、河合千枝
子、中井由美子、木屋千恵子▽民
生文教常任委◎中富貴美子、○
宮崎三保子、辻喜代子、森川時衣、
福永則子▽産業建設常任委◎佐
野美樹子、○田悟敏子、成田雅子、
多田麗子、長田昌子
（◎は委員長、○は副委員長）

小矢部市女性議会議員

(敬称略)

林 智子		佐野美樹子	
多田 麗子		辻 喜代子	
木屋千恵子		可部谷真由美	
田悟 敏子		河合千枝子	
森川 時衣		中富貴美子	
神田 佳美		宮崎三保子	
福永 則子		成田 雅子	
長田 昌子		中井由美子	

第10回小矢部市女性議会常任委員会日程

月 日	委員会	所属	時間
7 / 24 (水)	総務 常任委員会	秘書広報課	13:30 ~ 13:45
		企画政策課	13:45 ~ 14:15
		商工立地振興課	14:15 ~ 14:30
		総務課・監査委員事務局	14:30 ~ 15:00
		財政課	15:00 ~ 15:30
		税務課	15:30 ~ 15:45
		津沢コミュニティプラザ	15:45 ~ 16:00
		会計室	16:00 ~ 16:15
		検査課	16:15 ~ 16:30
		議事調査課	16:30 ~ 16:45
			~ 17:00
8 / 1 (木)	産業建設 常任委員会	都市計画課	9:00 ~ 9:15
		農林課・農業委員会事務局	9:15 ~ 9:45
		稲葉山牧野	9:45 ~ 10:00
		建設課	10:00 ~ 10:30
		観光振興課	10:30 ~ 10:45
		上下水道課	10:45 ~ 11:15
		商工立地振興課	11:15 ~ 11:30
			~ 12:00
8 / 1 (木)	民生文教 常任委員会	市民課	13:30 ~ 14:00
		市民協働課	14:00 ~ 14:15
		生活環境課	14:15 ~ 14:45
		健康福祉課	14:45 ~ 15:15
		社会福祉課	15:15 ~ 15:45
		教育総務課	15:45 ~ 16:15
		生涯学習文化課	16:15 ~ 16:30
		スポーツ課	16:30 ~ 16:45
			~ 17:00

「みんなで考えようおやべの予算 平成25年度小矢部市予算の概要」資料

第10回小矢部市女性議会議員市内施設視察日程

- 1 日時：平成25年8月22日（木）午前 9時00分～午後4時30分
- 2 集合場所：市役所1階ロビー
- 3 視察順路

順番	時 間	視 察 場 所	連絡先	分野	担当課
	9:00	市役所発			
1	9:05~9:35 30分	防災センター（小矢部消防署）	67-0119	総務	総務課
2	9:50~10:05 15分	岩尾滝くつろぎ交流館	67-1102	総務	企画政策課
3	10:05~10:25 20分	小矢部市教育センター	67-0758	民文	教育総務課
4	10:35~10:55 20分	石動放課後児童クラブ	67-0211	民文	社会福祉課
5	10:55~11:20 25分	石動小学校	67-0249	民文	教育総務課
6	11:30~11:45 15分	倶利伽羅源平の郷 埴生口	67-5645	産建	建設課
7	11:55~12:10 15分	道の駅 メルヘンおやべ	68-3811	産建	観光振興課
	12:10~13:10 60分	昼食（道の駅）			
8	13:10~13:20 10分	防災倉庫		総務	総務課
9	13:30~13:50 20分	桜町J OMONパーク	67-5255	民文	生涯学習文化課
10	14:00~14:30 30分	わくわく小矢部	67-5360	民文	（健康福祉課）
11	14:40~15:10 30分	石動駅周辺整備（都市計画課）		産建	都市計画課
12	15:25~16:00 35分	稲葉山牧野	67-2607	産建	稲葉山牧野
	16:15	市役所着			

第 10 回 小矢部市女性議会本会議日程

日 時 平成 25 年 10 月 28 日 (月)

午後 2 時

場 所 小矢部市議会議場

1 小矢部市女性議会本会議

- (1) 開会
- (2) 委員長報告
- (3) 一般質問
- (4) 決議
- (5) 閉会

2 閉会式

- (1) 開 会
- (2) あいさつ
- (3) 来賓あいさつ
市長あいさつ 小矢部市長 桜井 森夫
議長あいさつ 小矢部市議会議長 中村 重樹
- (4) 閉 会

第 1 0 回小矢部市女性議会

議 事 日 程 第 2 号

平成 2 5 年 1 0 月 2 8 日 (月)

午後 2 時開議

日程第 1 各常任委員会の報告について
(委員長報告)

日程第 2 市政に対する一般質問について
(一般質問)

日程第 3 議員提出議案第 1 号

小矢部市政に対する要望についての決議
(提出者の提案理由説明・質疑・討論・表決)

委 員 会 報 告

民生文教常任委員会 委員長 中富貴美子



民生文教常任委員会の活動報告をいたします。

7月12日組織委員会において宮崎三保子、森川時衣、辻喜代子、福永則子、中富貴美子、以上5名が民生文教委員に選出されました。

当日、桜井市長より市制方針をお聞きし全員学習会において地方自治、議会制度、予算概要など行政について説明を受けました。

8月1日民生文教常任委員会が開催され、各所管担当課長より民生文教に関する業務内容の説明、予算の概要について詳しく説明いただき小矢部市予算を再認識する機会となりました。

8月22日小矢部市市内公共施設視察12か所訪問し、民生文教に係る施設は、5か所で教育センターの役割、石動小学校の改築、放課後児童クラブの事業内容、その他の施設など大変有意義な視察となりました。また、9月18日市の協力を得て「おおたに放課後児童クラブ」も視察させていただき、児童たちの新たな環境を知ることが出来ました。

同じく9月18日市議会の民生文教常任委員会を2名で傍聴させていただきました。

民生文教常任委員会は、7回の委員会を開催し、自己紹介から始まり気心知れた仲間となり、市制方針や、各施設の視察、身の回りに起きている現状等をふまえてお互い意見を出し合い試行錯誤の繰り返しでありましたが次の2項目を所管事項として取り上げることにいたしました。

1. 教育環境の整備・充実について

- ①情報教育について
- ②教育費支援について
- ③放課後児童クラブについて

2. 小矢部市民が生きがいを持ち、自分らしく安心して住める、時代に対応した福祉のまちづくりについて

- ①買い物弱者と呼ばれる住民の増加に伴う地域の体制作りについて
- ②高齢者のリサイクルごみ分別支援について
- ③クロスランドおやべ管理運営事業について

私たち委員は貴重な経験と体験をする中で、新聞を隅々まで目を通すようになり、小矢部の冊子「みんなで考えようおやべの予算」を改めてより関心をもって読むようになりました。

私たち市民はもっと小矢部市を把握しながら小矢部の良さを伝えていき又、改善出来るところはみんなで知恵を出し合って、よりよい街づくりに協力出来ること委員一同願っています。以上をもちまして委員会報告を終わります。

産業建設常任委員会の活動報告をいたします。

7月12日組織委員会において、田悟敏子・多田麗子・長田昌子・成田雅子・佐野美樹子の5名が産業建設常任委員に選出されました。

当日、桜井市長からの市政方針の説明をお聞きし、全員学習会では各担当課長から予算及び事業内容について説明を受けました。



8月1日には、産業建設常任委員会が開催され、平成25年度小矢部市予算の概要に基づき事業の内容について、担当課長より説明を受けました。

8月22日には、市内公共施設を視察させていただき、施設の方々の努力改善されているのを目のあたりにし、感銘を受けました。そして、施設の抱える問題点も知ることができました。

私達委員会は、これらを参考にして、まず稲葉山に登頂して眼下に小矢部市を展望したり、義仲・巴号のバスに乗車したり、市内各地を再度視て廻りました。これらを参考にして、私達の産業建設常任委員会は、6回の会合をもち、次の事項について本会議で、質問することに致しました。

1. 小矢部市の観光推進に関する提案

- (1) 稲葉山からの展望景観について
- (2) 道の駅おやべのドックラン用駐車場について

2. 安全で安心して暮らせる、心通い合う街づくりについて

- (1) 河川の整備について
- (2) 市街地の活性化について
- (3) 義仲・巴号の運転内容について

稲葉山に登頂し、富山湾につながる風景と立山連峰を見渡せる素晴らしい景観を持つ小矢部市を一市民として、誇りに思いました。

また、義仲・巴号のバスに乗車し、運行の利用をもっと拡大することや、車内に観光ボランティアの方のボイスレコーダーも常備されていれば、さらにいいのではないかと思いました。これからは、大いに私達市民の小さな力でも、一丸となって、自信を持って、他市・他県にアピールしていきたいと思っております。

小矢部市に住んでいながら、施設の関係者の方々が維持管理に大変な努力をされていることをよく知りませんでした。この機会にたくさんのことを体験学習させていただいたことに感謝し、これからもよりよい街づくりに積極的に取りくんでいきたいと思っております。

総務常任委員会 委員長 林 智子

総務常任委員会の活動報告をいたします。

7月12日組織委員会において、稗田佳美、可部谷真由美、河合千枝子、中井由美子、木屋千恵子、林智子の6名が総務常任委員に任命されました。市長より、市政方針をお聞きし、全員学習会では、地方自治、議会制度、予算概要の説明を受けました。



7月24日総務関係の所轄担当課長より、総務に関する業務内容の説明を受け、市発行の冊子(みんなで考えようおやべの予算)を再認識する機会となりました。それを受け、1回目の委員会を開き、意見集約をし、定住化の促進事業実績、クロスランドタワーの利用状況などの質問を市に提出致しました。

8月22日市内公共施設12箇所を視察させていただき、施設が抱える問題点も感じ取ることができました。中でも、富山型デイサービス「わくわく小矢部」、教育相談活動の充実を図る「小矢部市教育センター」等、女性のきめ細かな感性、熱意、輝いた女性の姿に感動し、多くの感銘を受けました。

8月24日委員会では、県定公園宮島峽に出かけ、一の滝・二の滝・そして恵林館まで足を延ばしました。清流と緑と彫刻の里ビーナス像に感動し、さらに恵林館からの眺めは、とてもすばらしく多くの人が気軽に立ち寄れる身近な観光地とし、ぜひ、東部産業団地による交流人口等に結びつけてほしいと、強く願うものです。

9月20日委員3名で、総務常任委員会を傍聴致しました。市当局の説明、議員の方々の質問、市当局による答弁のやり取りを身近に体験することができました。報告事項の中で、小矢部市総合防災訓練の実施についての話がありました。いざというときに落ち着いて行動できるよう、防災センターを視察した折いただいた防火・防災コンパクトガイドを常に携帯し活用致します。

総務常任委員会は、7回の会合を重ね、取り組む課題の重要性をしっかりと受けとめ、小矢部市の人口減少対策・参画促進による社会の活性化・防災・東部産業団地(アウトレットモール)の造成に目をむけ、「魅力・安心・充実しあわせおやべ」を目指し、以下のことを所管事項としてとりあげることに致しました。

1. 男女共同参画について

地域活動における女性の登用について

市政に対し、意見を述べる場の提供づくりについて

政策・方針決定過程などへの女性参画について

市が管理する施設への管理者の女性登用について

2. 防災について

毎年確認出来る様な仕組みづくりについて

指定されている避難所の耐震対策について

避難勧告、避難指示が出された場合の方法、行動について

3. 小矢部市の人口減少対策について

定住促進対策事業の効果と今後の見通しについて

雇用の確保と安定について

Uターン就職支援について

中高齢者が元気で暮らすために

このような機会にめぐまれたことに深く感謝し、小矢部市民として、住み続けたいと思えるような体制づくり、女性が市や地域の中で、活躍できる体制づくりに努力していきたいと思えます。

以上をもちまして、総務常任委員会の報告を終わります。



第10回小矢部市女性議会一般質問

第10回小矢部市女性議会(発言通告一覧)

発言者		通告内容	担当課	順番	答弁者
民生文教	宮崎三保子	1. 教育環境、子育て支援の充実について			
		①情報教育について	教育総務課	2	教育長 日光久悦
		②教育費支援について	教育総務課	3	教育次長 舟本 勇
		③放課後児童クラブについて	社会福祉課	1	市長 桜井森夫
総務	中井由美子	1. 男女共同参画について			
		①地域活動への積極的な女性の活用について	市民協働課	4	民生部長 林 和宏
		②パブリックコメント等への女性の参加促進について	総務課	1	市長 桜井森夫
		③市行政の各種委員会・審議会等の政策・方針決定の場への女性の登用率アップについて	市民協働課	4	民生部長 林 和宏
		④市が管理する施設の管理者・責任者への女性の積極的な登用について	総務課	2	副市長 高島進一
		2. 防災について			
		①防災関連情報の周知徹底の仕組みづくりについて	総務課	3	総務部長 野澤敏夫
		②市内避難場所の耐震対策について	財政課		
		③災害時、避難勧告や避難指示が発令された場合、近隣住民と相互扶助による行動・方法について市民への周知徹底を図るための対策について	総務課		
産業建設	多田麗子	1. 安全で安心して暮らせる、心通い合う街づくりについて			
		①河川の整備について	建設課	2	産建部長 川原幸雄
		②市街地の活性化について	商工立地振興課	1	市長 桜井森夫
		③義仲・巴号の運転内容について	観光振興課 生活環境課	3 4	産建部長 川原幸雄 民生部長 林 和宏
総務	木屋千恵子	小矢部市の人口減少対策について			
		1 定住促進対策事業の効果と今後の見通しについて	企画政策課	1	市長 桜井森夫
		2 雇用の確保と安定のための施策について			
		①周辺国道の4車線化について	建設課	4	産建部長 川原幸雄
		②周辺観光地(宮島峡、稲葉山など)の整備について	観光振興課		
		③小矢部市のグルメPRと支援について	企画政策課	2	室長 稲原 勉
		3 Uターン就職支援について	商工立地振興課		
4 中高齢者が元気で暮らすための施策について	財政課	3	総務部長 野澤敏夫		
産業建設	田悟敏子	1. 市の観光推進について			
		①稲葉山からの展望景観について	稲葉山牧野	1	市長 桜井森夫
		②道の駅おやべのドックラン用の駐車場について	観光振興課	2	産建部長 川原幸雄
民生文教	森川時衣	1. 小矢部市民が生きがいをもち、自分らしく安心して住める、時代に対応した福祉のまちづくりについて			
		①「買い物弱者」とよばれる住民、高齢者の増加に伴う地域の体制作りについて	健康福祉課 商工立地振興課	1	市長 桜井森夫
		②高齢者のリサイクルゴミ分別支援について	健康福祉課 社会福祉課	2	民生部長 林 和宏
		③クロスランドおやべ管理運営事業について	生涯学習文化課	3	教育次長 舟本 勇

質問者 宮崎三保子 民生文教常任委員会

質問等事項

教育環境、子育て支援の充実について

- ①情報教育について
- ②教育費支援について
- ③放課後児童クラブについて



質問内容

①情報教育について

8月に石動小学校のコンピュータ室や図書室を視察しました。

パソコンを利用した学習や、図書検索システムの導入など、情報教育の環境整備に力を入れておられると知りました。

しかし地域では、「子どもたちが集まっているがヤケに静かだと思ったら、お互いに話もせずゲームに熱中していた・・・」という話をよく聞きます。

また、乗り物の中や街中でもスマートフォンや携帯に夢中になっている子どもや大人もよく見かけます。何か不安を感じるのは私一人でしょうか。

文部科学省の生活実態調査によると、県内児童生徒の勉強時間は全国平均より短く、ゲームで遊ぶ時間は長いそうです。また内閣府が9月7日付で発表した「子どもの安全に関する世論調査」によると、子どもがスマートフォンを利用することに「不安を感じる」と回答した人が71.9%に上ったそうです。

このような状況の中、施設整備だけでなく、インターネット利用に関する教育、情報モラルに関する教育の充実が求められています。高校では、教科としての「情報」が必修となっていますが、高校からでは遅いのではないのでしょうか。

小矢部市での小・中学校における情報教育への取り組みの現状についてお訊ねします。また、保護者への啓発活動にも取り組んでいただきたいと思います。

②教育費支援について

「みんなで考えようおやべの予算資料編」によると、子どもに関する施策が実になくなされており驚きました。私が子育て中の時に比べると大変充実しており、子どもが大切にされていると感じました。

実際、今年5月の子育て支援・少子化対策県民会議で、子育てのしやすさを示す富山県の指数は、全国上位だと報告されたそうです。

しかし子育て環境はよくても、少子化に歯止めのかからない状況です。さまざまな原因が考えられますが、教育費が高つくこともその一つではないのでしょうか。子ども一人当たり保育園から大学までの教育費は、すべて公立の場合約800万円、私立の場合1000万円以上との試算もあります。

小矢部市では、幼児や小・中学生への医療費・保育費の補助はありますが、高校生や大学生への教育費の支援についてはあまり聞きません。しかし現状では、高校の授業料は無償化となったものの学費以外の出費も多く、さらに県外の大学へ進学した場合、生活費の仕送りが大きな負担となっています。

砺波市では高校生を対象にした市奨学金の貸与規則を改正し、学業成績の基準を削除すると発表しました。

小矢部市でも教育費支援の基準・範囲・金額を見直すなど、奨学金制度の整備を図ってはどうか。また制度の周知を図るために、広報に力を入れる必要があります。将来小矢部市へ戻り定住する人材の確保につながるように、奨学金制度を整備する方法もあると思います。

小矢部市の奨学金の現状と今後の見通しについてお訊ねします。

③放課後児童クラブについて

石動放課後児童クラブとおおたに放課後児童クラブを視察して、施設の素晴らしさに感心しました。対象学年を6年生まで広げ登録児童数も増加するなど、市民にも制度が定着したように思います。

しかし、全体に手狭な印象も受けました。石動放課後児童クラブでは、玄関が狭く放課後一斉に児童がクラブに移動すると外まで行列をすることになります。また傘かけの間隔や下足箱が狭く、使い勝手がよくないそうです。石動、おおたに放課後児童クラブどちらも、全員屋内に入ると窮屈だろうなと思われました。

設置基準を満たしているから“よし”とするのではなく、実際の現場の状況に応じて、定員の見直し、施設の増改築、職員の増員など対応をお願いします。

また管理面の問題はありますが、体育館、図書室など学校施設の使用が簡単にできるようにならないものでしょうか。さらなる放課後児童クラブの充実を切に望みます。

一般質問

【発言者】 宮崎三保子

【質問】 教育環境、子育て支援の充実について

【要旨】 ③放課後児童クラブについて

【答弁】 市長 桜井 森夫

本市では、平成 11 年度から放課後児童クラブを設置し、現在市内の全小学校において、教員・保育士の資格を持つ放課後児童クラブ指導員やその補助員である相談員がクラブの運営にあたっております。

また、放課後児童クラブの利用者数は年々増加し、10月1日現在、204人の児童が利用しております。

放課後児童クラブの目的は、保護者の就労などの事情により、日中、保護者が家庭にいない小学生児童に対して、放課後や長期休暇中、保護者に代わって保育を行うものであり、学習をはじめとする正しい生活習慣と健全な遊びを身につけ、集団でのルールを守りながら、家庭的な温かい雰囲気の中で過ごすことにより、心身ともに健やかな児童を育てることです。

ご質問の利用環境についてですが、事業当初より小学校の空き教室を利用して児童の受け入れを開始しているところであり、利用児童の増加に伴い「おおたに放課後児童クラブ」を平成 18 年度と平成 20 年度に増築し、「おおたに第 2 放課後児童クラブ」を平成 21 年度に新規開設いたしました。また、石動小学校校舎の改築に伴い「石動放課後児童クラブ」を平成 24 年度に移転新築いたしました。限られた補助金のなかで、少しでも児童の活動スペースを確保するという観点から整備したところであります。なお、平

成 20 年 3 月 26 日に開催されました富山県主催の「平成 19 年度子育てミーティング in 小矢部」において、富山県知事が「おおたに放課後児童クラブ」を視察され、施設及び運営について、高い評価をいただいたところであります。

今後とも、施設スペースの問題をはじめ定員数の見直し、職員の増員につきましては、今後の利用児童数の推移等を勘案しながら、対応してまいりたいと考えております。

次に、体育館・図書館などの学校施設の使用についてであります。放課後以降は小学校の教職員が不在になるということもあり、管理面や防犯面等から、原則、施設を使用したい場合は予め学校に申し出て使用しており、特に長期休暇時を中心に学校施設を活用させていただいているところであります。

いずれにいたしましても、児童の健やかな育成のために、今後とも、より一層充実した放課後児童クラブの運営・整備を図ってまいりたいと考えております。

[要旨] ①情報教育への取り組みの現状はどうか。

[答弁] 教育長 日光 久悦

情報教育へのご質問であります。インターネットについては、いまやコミュニケーション手段の一つとして急速に広がっており、情報収集、伝達の手段として便利な反面、いじめの原因となったり、犯罪やトラブルに巻き込まれる事例も増え、子どもたちのネットへの依存についても憂慮しているところです。

市内において、中学生では、ほぼ 100%、小学校高学年でも 70%以上が何らかのネットにつながる機器を持っているとのアンケート結果も出ております。

こうした機器は当然学校への持込は禁止されておりますし、家庭での使用については、学年集会、全校集会等の機会に携帯機器などの危険性や使用上のマナーの指導をしております。

また、学年だより、プリント配布により保護者への注意を促したり、PTAと協力し「ネット安全教室」などの保護者等への研修会も実施しております。

今後こうした取り組みを継続することにより、子どもたちが安全にパソコンや携帯機器などの情報端末を使用できるよう指導してまいりたいと考えております。

また、保護者への啓発活動にも今後とも努めてまいりたいと考えております。

[要旨] ②教育費支援について

[答弁] 教育次長 舟本 勇

奨学資金につきましては、富山県奨学資金や日本学生支援機構奨学資金など様々な制度がありますが、本市においては大学等へ就学する方へ、進学による家計の経済的な負担を軽減し、安心して教育を受けていただけるように小矢部市奨学資金制度を設け、平成 25 年度においては 13 名の方がこの制度を利用されております。

この奨学資金制度は、月額 4 万円の貸与を受け、卒業から 10 年以内に貸与を受けた金額を返還していただく制度であります。

この制度を利用していただくには、小矢部市に住所を有する方又は就学のため他市に住所を移した方でその父母が小矢部市に住所を有する方であり、学費の支弁が困難であるなどの条件がありますが、これまで多くの方にご利用いただいているものと考えております。

また、この制度の周知につきましては、毎年「広報おやべ」に掲載するほか市のホー

ムページに常時掲載し、市民の皆さんに周知しているところであります。

現状ではこの制度の見直しは検討しておりませんが、今後とも、進学による家計の経済的な負担を軽減し、安心して教育を受けていただけるように努めてまいりたいと考えております。

質問者 中井由美子 総務常任委員会

質問等事項

小矢部市の男女共同参画への取り組みと
防災体制について



質問内容

1. 男女共同参画について

小矢部市男女共同参画プラン(第2次)が本年度より施行されておりますが、「小矢部市予算の概要」の資料によりますと「あらゆる分野で男女がともに参画し対等な立場で考え、責任を担い行動できる男女共同参画社会を目指す」とあります。プランの実行について具体的な取り組みをお訊ねします。

①地域活動の政策決定の場である自治会組織の三役の中に女性役員を入れて、女性の視点からの意見を反映させ、活躍できる状況を作り地域の活性化を図っていただくよう要望します。

②パブリックコメントへの積極的参加を促し、また各地区において女性だけの市長との対話集会の機会を設けるなど、より多くの女性が市政に対し意見を述べる場の提供作りを望みます。

③女性議会が始まって以来要望しているところですが、市行政の各種委員会・審議会等の政策・方針決定の場への女性の登用率をアップして、真の男女共同参画社会の実現を望みます。

④市が管理する施設について、その管理者・責任者に女性を積極的に登用してほしい。施設によっては大変不衛生で、このままでは小矢部市のイメージダウンにもつながりかねません。清潔感ある施設とし、イメージアップと利用率向上を図るためにも積極的に女性管理者の登用を望みます。

2. 防災について

防災について8月5日消防署で開かれました「地域防災力」の話はとても有意義なものでした。昨今は異常気象の影響により、日本各地で地震・台風・集中豪雨などの大規模災害が発生しています。今年4月4日に小矢部市でも震度4の地震がありました。この地震に対する小矢部市の対応が迅速であったと新聞報道がされていきました。私達市民は大変心強く感じていますし、安心・安全が実感できました。災害を身近に感じ、市民の防災への関心は以前にも増して高くなっています。一人ひとりが万が一に備えることが重要です。誰もが自分の周辺でそんな災害が発生しないことを願っていますが、小矢部市当局としての備えと対策についてお訊ねします。

①小矢部市の地形地図(断層)や避難場所、防災グッズ、家庭備蓄、命を守る方法などを市民全員がわかるように町内単位、公共施設単位、企業単位等で毎年確認するような仕組み作りはできないでしょうか。お訊ねします。

②市内各所にある公共施設が災害時、避難場所に指定されていますが、その耐震対策はどのようになっているのでしょうか。お訊ねします。

③防災訓練は定期的実施されていますが、災害時、避難勧告・避難指示が発令された場合、近隣住民と相互扶助による行動・方法について市民への周知徹底を図っていただきたく、その対策をお訊ねします。

一般質問

[発言者] 中井由美子

[質問] 小矢部市の男女共同参画への取り組みと防災体制について

[要旨] 1. ②パブリックコメント等への女性の参加促進について

[答弁] 市長 桜井 森夫

本市では、市民の意見が反映される開かれた市政を推進するため、めるへん市民塾の開催やタウンミーティング、市長への手紙、トークの日などさまざまな事業を行っております。

また、総合計画など市の重要な政策の意思決定過程において、市の説明責任を果たし、市民の市政への参画による協働のまちづくりと公正で開かれた市政の推進に寄与することを目的に、平成19年度に制定した「小矢部市市民意見募集要綱」に基づき、パブリックコメントを実施しているところであります。

パブリックコメントの運用にあたっては、今後ともホームページへの掲載をはじめ、広報おやべやケーブルテレビでの案内、また、PRチラシの配布などにより、広く周知を図り、女性も含めより多くの市民の皆さんのご意見を市政に反映させて参りたいと考えております。

また、多くの女性と私が意見交換できる場を提供することについては、現在、隔年で実施している「タウンミーティング」や毎月19日の「トークの日」などを積極的に活用していただければと考えますが、それ以外にも各団体から要請があれば、私が皆さんとの意見交換会等に積極的に出席しますので、開催を希望される場合は、秘書広報課にご相談をお願いしたいと考えております。

[要旨] ④市が管理する施設の管理者・責任者への女性の積極的な登用について

[答弁] 副市長 高島 進一

本市の施設管理については、小・中学校や保育所、庁舎など、当該施設の所管課が直接管理しているものと、総合会館やクロスランドおやべ、スポーツ施設など指定管理者制度により管理を行っているものがあります。

指定管理者制度は民間事業者等のノウハウを施設運営に活用することで市民サービスのより一層の向上と効果的かつ効率的な運営を目的とするものであり、平成15年の地方自治法の改正を受けて、本市では平成18年度から導入しており、現在26施設において実施しています。これらの施設においても各担当課が、定期的に施設の管理状況について指定管理者から報告を受けると共に、随時、現場調査を行うなど、常に施設の管理状況を把握し、適切な管理運営となるよう努めているところであります。

施設の管理責任者は、機器の保守点検や必要物品の調達、各種法令手続きの執行など、多岐に亘る業務を行う一方、利用者への対応や清潔な施設の維持管理も適切に行う責務があります。

このような施設の管理責任者にどのような人材を配置するかについては、指定管理者側の判断によるものでありますが、市としても女性も含め適切な人材の配置を求めてまいりたいと存じます。

[要旨]2. ①市の地形地図、避難場所、防災グッズ、家庭備蓄、命を守る方法など市民全員がわかるように町内単位、公共施設単位、企業単位等で毎年確認できる仕組みづくりについて

[答弁] 総務部長 野澤敏夫

防災関連情報の周知を図る取り組みといたしましては、市が指定する避難場所に関しては、平成15年度から表示看板を順次設置し、平成17年度までに全ての避難所に設置を完了しております。

また、平成17年度には各地区内にある避難場所を明示した「避難誘導案内板」を作成し、市内全町内に配布し、各町内の目につきやすい所に掲示していただきました。災害に関する地形的な情報提供として、平成18年度と平成21年度に洪水ハザードマップを、また今年5月には土砂災害ハザードマップを全戸配布しました。このマップには、いずれも避難場所や緊急時の対処方法等も記載しており、各家庭に加え、各町内の公民館にも掲示をお願いしているところです。

また、防災全般に関する知識の普及のため、平成23年3月には、家庭備蓄や防災グッズ・命を守る方法などについて記載した「わが家の防災ガイド」を全戸配布し日常生活の中での防災意識の向上を図っているところであります。

一方、各地区では、毎年、防災訓練が行われておりますが、市では昨年度から市全体の総合防災訓練を開催し、広く市民の皆さんに参加していただく実践的で総合的な訓練を行っております。

是非、これらの情報や機会を十分に活用していただき、災害への備えをより確かなものにしていただきたいと考えております。

[要旨]2. ②市内避難場所の耐震対策について

[答弁] 総務部長 野澤敏夫

公共施設の耐震対策につきましては、これまで、小学校や保育所など子どもたちが利用する施設を優先して補強工事を実施してきました。平成24年度3月補正予算において、国庫補助金や交付税措置のある有利な市債を活用して、大谷・東部小学校の耐震補強経費を予算化し、現在、工事を行っているところです。この工事の完成により、平成25年度内に、子どもたちの安全を確保するよう市内全ての小中学校、保育所、幼稚園の耐震化が終了する予定です。

さて、市内避難場所に指定されている公共施設については、そのほとんどが耐震対応されていますが、総合会館と勤労青少年ホームの2施設については、耐震基準を満たしていない状況であります。

両施設につきましては、職員で構成する「公共施設の在り方検討委員会」や市民の方々が参画した「行財政改革推進市民会議」において、再編統合を含めた施設の在り方を検討しているところであり、その方向性を見極めたうえで、計画的に対応してまいりたいと考えております。

[要旨] 2. ③災害時における近隣住民と相互扶助による行動・方法について市民への周知徹底を図るその対策について

[答弁] 総務部長 野澤敏夫

万が一災害が発生した場合には、自らが行動する「自助」・行政による「公助」と共に、ご質問にある近隣住民と相互扶助による行動、即ち、「共助」が大変重要となってまいります。本市では、今程申し上げましたように、市総合防災訓練を実施しており、昨年度は石動北部地区と宮島地区、本年度は藪波地区において、開催したところであります。この訓練では、各町内会の協力のもと多くの住民の方々に参加いただき、避難所までの避難訓練や初期消火訓練などの各種訓練を実施すると共に、新たに住民の皆さんが主体的に行う「安否確認訓練」に取り組み、各世帯の避難状況を一人一人把握する行動を通して、「共助」の重要性を体験していただいているところであります。

また、本市では、18地区全てに自主防災会が組織されており、防災機器の整備や各種訓練の実施など、様々な活動に取り組まれております。一方、専門的な知識を活かして地域の中で活動する「防災士」の育成にも力を注いでおり、昨年度から受講料の助成を行う中、これまで27名の方が資格を取得されております。

9月2日には、県内自治体では初めて、市内の防災士の方々との意見交換会も開催いたしました。各地区2名以上の防災士を目指し、今年度も多くの方が受講されており、地域の防災力向上の核として、その活動に期待すると共に、行政との連携強化を図ってまいりたいと考えているところであります。

なお、市の出前講座においても「防災」に関するメニューがあり、今年度も各団体からの依頼に基づき、市の担当者が直接出向き、防災・減災に対する行動のあり方や防災行政無線などをテーマとして実施してきております。

「共助」意識の高まりを図る上でも、是非、各町内会や団体の皆様に積極的にご活用いただければと思います。

[要旨] 1. ①地域活動への積極的な女性の活用について

[答弁] 民生部長 林 和宏

わが国は、現在、人口減少社会に入っており、社会活動を行うためには、女性の積極的な登用や参画が不可欠な状況となっております。

しかしながら、小矢部市においては、地域における意思決定等の場である地区振興会や自治会などの地域組織における女性役員の登用が進んでいないのが現状であります。

市としましては、自治会連合会などを通じて、女性役員の登用を働きかけているところであり、また、男女共同参画市民フォーラムや出前講座において、男女共同参画推進員による自治会の女性の登用の重要性を題材とした寸劇を実施するなど、啓発活動を進めているところであります。

これらの活動により、いくつかの地域組織においては、すでに女性が役員として活躍されていると聞いております。

また、昨年度から、協働のまちづくり講座を開催し、地域活動のリーダーを養成しているところであり、この講座への女性の積極的な参加により、女性の地域活動リーダーとしての人材養成が進むものと考えております。

今後につきましては、引き続き、自治会連合会などを通じ、地域組織等の役員への女

性の登用を働きかけるほか、男女共同参画推進員の出前講座やめるへん市民塾などを通して、地域組織における女性役員の必要性を周知し、地域活動における女性の参画を進めていきたいと考えております。

[要旨] 1. ③市行政の各種委員会・審議会等の政策・方針決定の場への女性の登用率をアップして、真の男女共同参画社会の実現について

[答弁] 民生部長 林 和宏

本市におきましては、魅力あるまちづくりを目指して、市民参画のもと新たな総合計画を策定し、「魅力・安心・充実しあわせおやべ」の実現を目指し、交流人口の拡大と定住人口の増加を最重要課題として取り組んでいます。多様化し複雑化する住民ニーズに的確に応えていくには、政策・方針決定を行ううえで、今まで以上に女性の視点にたった見識を発揮する「まちづくり」が極めて重要であると考えています。

従いまして、市の各種審議会委員への女性委員の選任にあたっては、女性委員の登用について、啓発活動を積極的に実施し、また、公募委員の募集を行うなど女性委員の参画割合を高めるよう努めており、女性委員の登用率は、平成 23 年度末は 26.7%、平成 24 年度末には 26.9%と徐々にではありますが年々その割合は高まってきております。

今後とも、平成 24 年度に策定した「男女共同参画プラン（2次プラン）」に基づく施策の着実な推進を図り、女性委員の目標値の 40%を目指し、引き続き努力してまいりますと考えております。

質問者 多田 麗子 産業建設常任委員会

質問等事項

安全で安心して暮らせる、心通い合う街づくりについて

- ①河川の整備について
 - ②市街地の活性化について
 - ③義仲、巴号の運転内容について
- 質問させていただきます



①河川の整備について

1995 年阪神淡路大震災、2007 年能登半島地震、2011 年東日本大震災と地震災害は私達国民にとって自然への恐怖を自覚させられました。本年も集中豪雨が全国各地を襲い、河川の氾濫が各地で起こりました。本市においても河川の決壊を防ぐために河川底の土砂清掃等、河川の整備が必要とされているのではないのでしょうか。

北蟹谷地区の五郎丸川を例にあげますと、北一地内で幅約 12m、深さ約 2mの川床に葦が生い茂り、上流より工事などで土砂が流れて来て、蓄積し、だんだん浅くなってきています。川岸には、50cm位溜まっている所もあります。数年前には、業者が清掃をされていたこともありましたが、重機で踏みつけるばかりであり良い除去にはなっていません。現在では、ますます堆積しています。

このようななかで、今年も小矢部川の増水は、すさまじいものがありました。先日も水が逆流してきて低い畑や屋敷内まで浸水しました。一級河川で管轄は県土木部かとは思いますが市当局からも一日も早く安全対策を望みます。

②市街地の活性化について

誘致を望んでいたアウトレットモールの設置計画が、市民にとってもたいへん期待されながら進められていますが、一方で街中の空き店舗等どのようにされていくのか、たいへん気がかりとなっています。防災面からいっても、空き店舗の増加が不安を高めているように思います。

石動駅周辺整備事業が進められて駅前がきれいになるに伴い、駅前商店街の地域を活かした個性的街づくりが進められていくことを要望いたします。空き店舗の素敵なカフェやギャラリー等への転換支援も提案し、実現されるよう望みます。

③義仲、巴号の運転内容について

毎週、土曜・日曜・祝日に市内を巡回する、義仲・巴号が運行していますが、誰も乗っていない場面をよく見かけます。空で走っているのを見る度に寂しく感じます。

何が原因で乗車が少ないのか、乗ってみることにしました。乗車した日は、たまたま 28 日の「不動尊の日」でしたので、私たちのほかに 8 人の乗客でした。運転手さんに尋ねたところ、いつもより多いということでしたが、俱利伽羅で降りられた後は、道の駅とクロスランドで 1 人乗車されただけでした。やはり、利用が少ないように感じました。

そこで提案ですが、ただ巡回するのではなく、観光を目的に、半日コースと、ゆっくり廻る 1 日コースの運行をし、宝物殿を見たり、義仲の話を聞いたり、道の駅では、食事や買いものの時間をとり、クロスランドタワーにも上ってもらいます。そうすれば、小矢部市の魅力をたくさんの人に知っていただけたと思います。

又、メルバスは、土曜・日曜・祝日は運行していません。沢山の参加者がある場合は、このバスを使うことができないでしょうか。検討をお願いします。

一般質問

[発言者] 多田 麗子

[質問] 安全で安心して暮らせる、心通い合う街づくりについて

[要旨] ②市街地の活性化に関する商店街の空き店舗利活用と支援策について

[答弁] 市長 桜井 森夫

議員からは、駅前商店街において、空き店舗をカフェやギャラリー等に改築するなど、個性的なまちづくりに取り組んではいかがでしょうか。そうした店舗改築に対して、支援すべではないかと具体的なご提案をいただきました。

小矢部市では新たな魅力創出の起爆剤となる、アウトレットモールの早期開業に向けて、本年 9 月から東部産業団地の造成工事に着手し、北陸新幹線の開業を視野に造成工事を計画的に進めているところであります。

北陸初となるアウトレットモールの開業は、本市の知名度向上や賑わいの創出と商業の振興、新たな雇用の創出、交流人口・定住人口の増加を図るうえで、千載一遇の好機であると考えております。

本年、アウトレットモール開業による既存商店街や石動駅周辺等への賑わい創出、市内への回遊性向上に向けて、店舗経営者の皆様が中心となり活性化策の立案に向けた「商店街活性化策研究事業」に着手しております。また、この研究事業の成果を基に、議員ご

提案の地域の特色を生かした個性のある街づくりが展開できるよう、県内学識者等の助言、提案を拝聴し具体的な方策を検討する商業まちづくり戦略会議の開催に向けて準備を進めております。

なお、空き店舗の解消に向けた本市の具体的な取り組みとして、平成23年度に「商店街等振興事業補助金交付制度」を創設し、空き店舗等への出店者に対し既存店舗の改修費用やリニューアルに要する費用への補助を行っております。これまで12事業者から申請があり補助金を交付しています。このほか、平成15年度からは、市商工会が事業主体となり石動商店街の空き店舗を活用した「街かどサロン・ふれあい」を運営し、市民サークルの作品展示や喫茶コーナー、各種講習会などを開催するなど、商店街の賑わいづくりに取り組まれております。

商店街の活性化、賑わいづくりは一朝一夕にできるものではないと思っております。先進地の成功事例でも、事業を営む店舗経営者が主体となり、消費者とのコミュニケーションを大切にしながら消費者ニーズを把握し、試行錯誤を繰り返しながら、一步一步着実に賑わいを取り戻しています。

本市といたしましても、議員からのご提案も含め事業者の皆様へ提案していくとともに、具体的な支援策について検討してまいりたいと考えております。

[要旨] ②河川の整備について

[答弁] 産業建設部長 川原 幸雄

河川につきましては、それぞれの管理者が、適正な維持管理に努めているところです。国・県においても、管理する河川の堆積状況をみて、適時、適切に浚渫し、必要な通水断面を確保しております。

大雨により河川が増水した際には、その河川水位により、水防団の待機や出動、住民への避難勧告等の発令判断などの水防体制が決められており、国、県、市また水防団が体制を整えています。また、各排水施設につきましても、操作規定に基づき、それぞれの管理者が管理を行っております。

河川の整備につきましては、国においては、小矢部川の支川合流点処理として藪波川や坂又川について、新たに樋門を整備し、また小矢部川の水衝部には低水護岸整備を実施しています。県においては、一級河川黒石川、横江宮川の改修整備を実施し、浸水被害の解消を図っています。市といたしましても、毎年の重点事業要望での事業推進の要望や改修事業における地元調整等の協力を努めております。

[要旨] ③義仲、巴号の運転内容について

[答弁] 産業建設部長 川原 幸雄

小矢部市観光周遊バス「義仲・巴号」については、週末、JRや高速バスを利用し、本市を訪れた観光客の観光地等への二次交通の確保と、市内滞在時間の延長を目的に平成23年度より運行しているところであります。

本年度においては、4月20日から11月24日までの土・日曜日と祝日の72日間運行することとしており、JRや高速バスのダイヤに合わせるとともに、周遊順を見直すなど、観光客の利便性を考慮して運行ダイヤの改訂を行っております。春の観光シーズンには、満員近くになることもありますが、ご指摘のとおり、イベントが無い時期等は、空車で運行していることもございます。

運行については、必要経費の軽減を行うため、市役所所有の白ナンバーのマイクロバスを利用しており、道路運送法により白ナンバー車での観光案内が禁止されていることから、停車時間を長くすることはできません。倶利伽羅源平の郷埴生口や倶利伽羅古戦場などで観光名勝を楽しみたい方には、一度降車いただき、次のバスが来るまで約1時間30分の間ゆっくり観光を楽しんでいただければと考えて運行ダイヤを編成しております。

また、利用促進を図るため、今年度、各観光地を回る場合の具体的なバス時間などを提示した「おすすめ3コース」を掲載した「観光周遊バス時刻表チラシ」や停留所周辺の観光スポットの案内を掲載した「観光周遊バス回る小矢部市の名所案内」というポケットサイズのパンフレットも作成し、実際に乗車される場合に活用していただけるよう、バス内や停留所へ設置しております。

さらには、市民の皆様にも小矢部市観光周遊バス「義仲・巴」活用していただくため、市報5月号掲載やCATVで利用促進を図るための番組も放送したところであります。

今後とも、観光客のニーズに応えられるよう、効果的な運行に努め、更なる交流人口の増加に努めてまいりたいと考えております。

[要旨] ③土、日の観光バス（義仲、巴号）が満員になった場合、メルバスを代替バスとして使うことができないか。

[答弁] 民生部長 林 和宏

メルバスは土日に運行をしておりませんが、その期間においてバスのメンテナンス及び修理を行っております。

現在、市は3台のメルバスを保有しており、平日はその3台が市内全域を朝早くから夜遅くまで周回しているため、休日は3カ月点検、6カ月点検、車検等のメンテナンスをローテーションで行っております。

また、メルバスとして使っているマイクロバスにかかる負担はかなり大きく、頻繁に小さな修理が必要となり、応急措置で平日をしのいだ故障の本格的な修理を行うこともたびたびあります。

そういった状況から、観光客によって「義仲、巴号」が満員になった場合、その追加バスとしてメルバスを使用するのは難しいと考えております。

質問者 木屋千恵子 総務常任委員会

質問等事項

小矢部市の人口減少対策について

- 1 定住促進対策事業の効果と今後の見通しについて
- 2 雇用の確保と安定について
- 3 Uターン就職支援について
- 4 中高齢者が元気で暮らすために

質問内容

小矢部市の人口は、昭和61年に37,055人を記録したあと減少傾向が続いています。日本全体が人口減少、少子高齢化社会にあることを考えますと、今後も人口減少傾向が続くことが推定されます。このような状況のなか、当市では、子育て支援、地



域産業活性化、企業立地推進、定住促進、観光振興の五つを重点プロジェクトとして取り組んでおられます。

1 定住促進対策事業の効果と今後の見通しについて

定住促進事業は、平成24年度には、定住助成が76件、転入者60人、家賃助成新規が45件、転入者59人と、平成22年度以降、実績は向上しております。これらは、市当局のほか不動産関係の民間業者等によるPRも功を奏しているように思われます。今後も申請件数の増加と転入者の増加を期待しています。この件につき市当局の今後の見通しについてお訊ねします。

2 雇用の確保と安定について

企業立地推進は雇用の確保と安定に重要で、東部産業団地(アウトレットモール)が造成の運びとなったことは大変喜ばしいことであります。これにより、雇用の確保のほか、交流人口の増加、地域の活性化などの相乗効果が期待されるものと考えます。これに関連し、

①周辺国道の4車線化について

②周辺観光地(宮島峡、稲葉山など)の整備について

③小矢部市のグルメPRと支援について

市当局の施策をお訊ねします。

3 Uターン就職支援について

「みんなで考えようおやべの予算平成25年度小矢部市予算の概要」によりますと、小矢部市の社会動態を年齢別にみると転出者の約51%は20歳から34歳の年齢層である、ということです。また、某地元新聞紙(平成25年9月21日付)の記事によりますと、富山県のまとめでは近年は若者の地元志向が強くUターン就職率が高水準を維持し、本年3月卒業の学生のUターン就職率は56.4%ということです。小矢部市のUターン就職率は、どれくらいでしょうか。また、Uターン就職を人口増加に繋げるべきと考えます。この件につき市当局のお考えをお訊ねします。

4 中高齢者が元気で暮らすために

小矢部市では、出生数が死亡数を下回る自然動態の減少が続いています。このため、市では子育て支援、婚活班の設置等に取り組んでおられます。また、中高齢者が生きがいを持って健康に暮らせるよう、市当局をはじめ各種団体、民間業者では様々な生涯学習講座やクラブなどを立ち上げ活動しておられます。津沢コミュニティプラザをはじめ、街中では、総合会館、市体育館、石動コミュニティセンター、勤労青少年ホーム、市民活動サポートセンターと、歩いて行ける距離にこのような施設があることは大変利便性の高いことだと思われま

す。しかし、これらの施設統合の話を耳にしておりますが、今後とも市民の教養向上と健康維持のため利用しやすい施設の確保を望みます。

一般質問

[発言者] 木屋千恵子

[質問] 小矢部市の人口減少対策について

[要旨] 1. 定住促進対策事業の効果と今後の見通しについて

[答弁] 市長 桜井 森夫

現在の定住促進及び家賃助成事業につきましては、平成 22 年度から実施しているところであり、100 万円助成という額の大きさや家賃助成という県内においても新たな制度の創設であったことから、この助成制度を活用されている転入者の方々も制度の周知とともに、着実に増加してきているところであります。

本市では、この定住促進施策と併せ、子育て支援施策、通勤環境等の優位性をアピールするためのテレビCMやラジオCMの放送、市外ショッピングモールや駅での広告看板などにより、市内外及び県外に向けたPRを実施してまいりました。

また、本市の施策をわかりやすく盛り込んだ絵本「メルギューくんのおやべで暮らそう」を作成し、県内外のイベントにおいて配布しているほか、不動産や建築関係の民間業者にもご協力をいただきながら、様々な機会を通じて本市の定住に向けた施策についてのPRを行っているところであります。

なお、今後の定住促進施策の方向性につきましては、現在、策定を進めております、第6次総合計画後期実施計画の中において、これまでの実績を踏まえて、改めて制度の継続や見直しなどについて検討をしていきたいと考えております。

[要旨] 2. ③小矢部市のグルメPRと支援について

[答弁] 企画室長 稲原 勉

アウトレットモールには300万人を超える集客が期待されており、この大幅な交流人口の増加を地域の活性化へつなげていくことが重要であると認識しております。

そのためには、アウトレットモールへの来場者を、市内に誘導し、滞留していただくための魅力が必要であると考えております。中でも、ご当地グルメに代表される地域ならではの「食」は、そこに行かなければ食べられないという希少性もあり、十分な魅力になると考えております。

特に、本市が開発を支援してきたホワイトラーメンについては、市内約30カ所の飲食店で提供されていることもあり、アウトレットモール内において積極的にPRを行うことにより、来場者の市内への誘導・滞留につなぐことができると考えています。

このように、「ホワイトラーメン」を始め、「おやべ火ね鶏」や「あん・うどん」など地域独自の食材を活かしたご当地グルメが市内の多くの飲食店で提供される環境が整うことにより、ますます、市内誘導・滞留のための魅力が高まるものと考えています。

今後とも、地域の個性的な食や食材など新たな魅力を発掘するとともに、本市のご当地グルメについて、アウトレットモールを始めとして幅広く情報発信して参りたいと考えております。また、併せまして、ご当地グルメを通じた本市のPR活動を行っていただける団体につきましては、本年度、新たに創設いたしました、「おやべグルメ大使」への認定を通じて、市外での出店活動についても支援して参りたいと考えております。

[要旨] 3. Uターン就職支援について

[答弁] 企画室長 稲原 勉

富山県では、県内の高校から県外の大学等へ進学し、卒業後に県内企業へ就職

した割合を「Uターン就職率」と定義し、調査を行っています。

この調査は、出身高等学校を通じて調査を実施していることから、市町村ごとのUターン就職率は把握できないとのことです。

ただし、国勢調査の結果を見ますと、平成17年調査における小矢部市の18歳人口は319人でありましたが、5年後の平成22年調査における23歳人口は274人であり、高校卒業後に若者の約14%となる45人が減少しています。

この調査結果を見ましても、本市では若者の転出が超過しており、Uターン就職を若者の人口増に繋げることが重要課題となっています。

Uターン施策につきましては、富山県が「Uターンフェア元気とやま合同企業説明会」を開催し、また、富山県若者就業支援センターでは大学等卒業後3年以内で就職活動中の方やUターン就職希望の方を対象に、定期的に合同企業説明会を開催しています。こうした施策を継続したことや、近年、学生の地元志向が高まっていることなどもあり、県内Uターン就職率は高水準で推移しているところです。

本市としましては、富山県と連携しながらUターンフェアや合同企業説明会の開催を積極的に広報するとともに、市内企業に対してもUターンフェアなどの参加を呼びかけていきたいと考えています。

また、アウトレットモールが開業すれば、先行事例によれば、約1000人の新たな雇用の創出が期待されます。今後とも、企業誘致による雇用機会の創出に取り組むほか、定住促進助成や賃貸住宅家賃助成をPRするなど、市外や県外へ転出した若者が小矢部市へUターン就職しやすい環境づくりに努めてまいります。

[要旨] 4. 中高齢者が元気で暮らすための施策について

[答弁] 総務部長 野澤敏夫

本市では、中高齢の方々が生きがいを持って暮らしていただけるよう、総合会館などの各施設において生涯学習講座や健康教室等の多くの事業を実施しています。また公民館などを活用した各種団体の自主的活動も活発に行われているところです。

しかしながら、それらの活動の場となっている公共施設の一部は老朽化が進み、今後の大規模な改修や維持管理費の増加が課題となっています。そこで、昨年10月、庁内に「公共施設の在り方検討委員会」を設置し、機能や役割が似た施設の在り方等について協議し、本年6月に中間報告書をまとめました。

その中間報告書では、生涯学習施設として目的の類似した施設で、比較的近接しており、利用人数が減少傾向にあり、かつ耐震補強の必要性がある総合会館、勤労青少年ホームや石動コミュニティセンターを再編統合するとの方向性を示しております。

この中間報告をもとに、市行財政改革推進市民会議において3つの施設それぞれの利用者のご意見をお聞きするなど協議を行っていただいております。利用に伴う様々な課題を整理し、検討を重ねていただいているところです。

施設の統廃合に関する結論がどのような形になるかは、現時点では申し上げられませんが、現在それらの施設を利用されている方々の活動に支障が生じないように、しっかりと配慮することが最も大切であると考えており、中高齢者を含む市民の皆さんが、引き続き教養向上と健康維持のため活動できるよう、より利用しやすい施設の確保に努めてまいりたいと考えております。

[要旨] 2. ① 周辺国道の4車線化について

[答弁] 産業建設部長 川原 幸雄

国道8号の4車線化につきましては、これまでも、桜町西交差点から芹川東交差点までの区間について国土交通省に要望してまいりました。

本年度は、アウトレットモール誘致について三井不動産と正式に合意に至りました。

このことから平成27年度のアウトレットモール開業における交通混雑の解消のため、本年度も引き続き国土交通省、富山県に対して市の平成26年度重点事業要望や国道8号整備促進期成同盟会要望等いろいろな機会を通じ、強く早期事業化に向けた要望活動を行っております。

[要旨] 2. ②周辺観光地(宮島峡、稲葉山など)の整備について

[答弁] 産業建設部長 川原 幸雄

県定公園であります「稲葉山・宮島峡」の整備に関しましては、これまでに宮島峡においては一の滝、二の滝、竜宮淵等の駐車場や遊歩道、公衆トイレ等の環境整備を行ってきたところであります。

本年度においても、宮島峡入口の宮中地内に富山県外国語観光サイン整備促進事業を活用して、大型観光案内板を多言語表記板に改修いたします。

また、稲葉山につきましては、富山県自然公園等整備事業を活用し、平成25年度から4カ年計画で稲葉山山頂公園の整備を実施することとしており、今年度は、稲葉山山頂の公衆トイレの改修、駐車場の増設、駐車場横の法面芝生化及びふれあい動物園の柵の補修を行います。26年度以降も、計画的に整備等を行う予定としております。

アウトレットモール進出に伴う交流人口の増加を見込み、今後も宮島峡や稲葉山など市内観光施設のブラッシュアップに努めてまいりたいと考えております。

質問者 田悟 敏子 産業建設常任委員会

質問等事項

小矢部市の観光推進に関する提案について

①稲葉山からの展望景観について

②道の駅おやべのドックラン用の駐車場について

質問内容

①稲葉山からの展望景観について

散居村の景観の中で、最今ではクロスランドタワーと稲葉山の風車と牧場は一段と輝いて見えるようになりました。特に稲葉山牧野の整備によりご当地キャラクター「メルギューくん、メルモモちゃん」の宣伝効果もあり、訪れる人は増えていきます。また、「稲葉山ふれあい動物広場」が整備され子供たちが動物とふれあい、えさやり体験を通じて、自然に親しみ自然への理解を深める大切な場となっております。

稲葉山の展望台に登って見ると残念ですが、クロスランドおやべ周辺環境外観が見えず、クロスランドタワーも見えません。ぜひ小矢部市全体が見渡せる展望台であって欲しいと思います。もちろん、富山湾、立山連峰の景観は素晴らしく感激の



極みです。しかし、稲葉山は小矢部市のメルギューくんの本居地です。登頂して、小矢部市の全体が見渡せたらそんな素晴らしいことはありません。ぜひ、展望台からの環境整備を要望します。また利用時間の延長も併せて要望します。

②道の駅おやべのドックラン用の駐車場について

道の駅は、田舎の街の活性化の動きに伴い全国で9月15日現在1003箇所に膨らんでいます。今ではスーパーを凌ぐ集客力と言われています。道の駅を磨ききるためよりいっそうの地産地消のサービスエリアの拡大、駐車場拡大が不可欠になってきています。そして、最近増えている車中泊ドライバーの増加も見逃せません。

市内はもちろん市外からも県外からも利用されてきています。愛犬が喜んで走り回る姿は愛犬家にはたまりません。二人できて一人が先に駐車場を先取りする姿も見かけます。道路沿いに並んでの路上駐車も見受けられます。是非駐車場の拡大を望みます。雨天も利用できれば最高の環境です。

利用者の方に意見をお聞きする機会があったのですが、「有料でもいいから芝生の管理をしてほしい」と言われました。芝生の管理についてお訊ねします。

一般質問

[発言者] 田悟 敏子

[質問] 小矢部市の観光推進に関する提案について

[要旨] ①稲葉山からの展望景観について

[答弁] 市長 桜井 森夫

展望台の環境整備についてであります。現在の展望施設は年々増加傾向にある来場者の皆様から、稲葉山には不意の雨をしのぐ場所がないとの声が多く聞かれるようになり、平成21年に森林総合管理センターの内部改修を行い、休憩所として一般開放し、平成22年に屋上を展望台として有効利用したものであります。

砺波平野、立山連峰の風景に加え、富山湾そして石川県かほく市に面する日本海まで一望できるようになり、大パノラマの眺望を訪れた方々に満足して頂いているところであります。

ご質問の展望台からクロスランドおやべ周辺が見えないとのことですが、山頂公園に遮られ物理的に困難な状況にあります。山頂周辺のメルギュー像の附近からは、クロスランドおやべ周辺がご覧いただけますので、どうか山頂周辺一体を散策して頂き、すばらしい景観を味わって頂きたいと考えております。

また、稲葉山ふれあい動物広場の利用時間の延長につきましても、夕方の来場者が少ないことや人件費等のコストがかかることを考慮しますと難しいと考えますが、今後も動物広場の来場者により一層楽しんで頂けるよう工夫し、努力して参りたいと思います。

[要旨] ②道の駅メルヘンおやべのドッグラン用駐車場の拡大及びドッグランの芝生の管理について

[答弁] 産業建設部長 川原 幸雄

道の駅「メルヘンおやべ」の駐車台数の算定については、平成20年3月「道の駅運営計画検討委員会」で検討され、近隣の道の駅駐車台数と国道8号の12時間交通通過車両数より、大型車30台、小型車90台の駐車台数が確保されております。

年間利用人数について、平成 23 年度には 513,999 人と目標であった 50 万人を超え、平成 24 年度には、531,137 人となり、県内の観光地・観光施設ベストテン入りをしており、小矢部市の大切な観光拠点として賑わいを創出しております。

ご指摘にありましたとおり、土日祝日などにはイベントも行っており、一時的に道の駅全体の駐車場が混雑し、駐車が困難な時間帯もありますが、平日の空き状況などをみますと、現在の台数を増やすことは難しいと考えております。

しかしながら、平成 27 年にオープンが予定されるアウトレットモールやそのことによる国道 8 号の交通量等の動向を見ながら、必要な駐車場台数について検討してまいりたいと考えております。

ドッグランの芝生の管理につきましては、積雪時期を除き、指定管理者が年 4 回の芝生管理(除草)を実施するとともに、専門業者による薬剤散布(殺虫剤)を年 2 回実施しています。

完成当時、ドッグラン全面に芝生が植生されておりましたが、現在、ご指摘のとおり、ドッグラン入口周辺部において芝生がない状況となっており、原因を究明しているところであり、芝生の再生を検討してまいります。

市といたしましても、道の駅利用者の声を常に聞きながら、利用者にとっての快適な休憩環境づくりを目指し、適正な維持管理に努めてまいりたいと考えております。

質問者 森川 時衣 民生文教常任委員会

質問等事項

小矢部市民が生きがいをもち、自分らしく安心して住める、時代に対応した福祉のまちづくりについて

- ①「買い物弱者」とよばれる住民、高齢者の増加に伴う地域の体制作りについて
- ②高齢者のリサイクルゴミ分別支援について
- ③ クロスランドおやべ管理運営事業について



質問内容

①「買い物弱者」とよばれる住民、高齢者の増加に伴う地域の体制作りについて

昨年、小矢部市は市制 50 周年を迎え、同時に市社会福祉協議会も設立 50 周年を迎えられました。社会福祉は少子・高齢化の進展に伴う、変革の時代の中で、「地域福祉の推進」を重要な柱として取り組んでこられました。

私の母も”いきいきサロン“などで、笑いのある楽しい時間を過ごしております。ただ、困難なことがあるといえば、近所に生鮮三品（青果・精肉・鮮魚）や、生活必需品を扱う店舗が無くなったことです。車の免許が無いので、公共のバスで、といっても運賃が高いのと、市のメルバスを乗り継いでも、地域を循環して運行するため、時間がかかります。また、足腰に障害を持っているので、かさばるものや重いものは買うことが出来ないというのです。

小矢部市ではかつて、商業機能では駅前や駅周辺、商店街といった市街地に立地する店舗が主流でした。が、近年の急激な高齢化や後継者不足によって閉店、撤退を余儀なくされる店舗が増えています。車等を使って、買い物に行くことが出来た住民も高齢化により、車を手放すことで、「買い物弱者」になる可能性があります。

「買い物」というと、生命に関わる、深刻な課題としてとらえにくいのですが、十分に食料品を購入する事ができなくなると、毎日の食生活において栄養が偏り、健康に害を及ぼす恐れがあると思われま。

近隣の南砺市では、「そくさいネット「ふれiTV」整備事業」というビデオ通話を取り入れています。

タッチパネル形式で、欲しい商品に触れるだけで注文でき、指定した時間に配達してくれるので、新鮮な魚等も食べられるようになったという、ネットスーパーが好評であるとのこと。

当市におきましては、「できれば、商品は近所で、現物を見て買いたい」という切なる要望が強いことから、宅配サービスではなく、移動販売等の実施の場合、公共施設利用の許可、更には経済的援助等を考慮していただくことを望みます。

②高齢者のリサイクルゴミ分別支援について

現在、各地域にて、可燃ゴミは、週2回、再生資源としての資源ゴミは、月1回収集をしております。多様化する生活関連の物資は、何ゴミに分別すればよいのかわからない種類が多く、頭を悩ませています。平成12年度の容器包装リサイクル法の施行に伴い、分別品目も増えました。しかし当初、市の説明会が1、2度行われただけで、自治会ごとの説明会では、細部まで浸透していないのが現実です。

以前、高齢者の方がゴミ出しに来られましたが、分別がきちんとできていなかった為、当番対応の皆さんで、仕分けをしたということがありました。

『ゴミを出すと何か言われるから嫌だ』と、出さなくなるので、家の中はゴミだらけになり、衛生面も心配です。ゴミの異臭で健康にも害を及ぼしかねません。

高齢者の方々のゴミ出しについては、平成22年度は、地区社協のケアネット活動でも、220回と第3位を占めてはいますが、仮に一人毎月1回、1年間の利用をしたとして、わずか20人弱の利用です。これは、ケアネット活動について、周知されていないのか、それとも金銭的な問題なのでしょう。良い活動だと思いますので、利用率を上げる取り組みを考慮していただきたいものです。また元気な高齢者の方々へは、各自治会で、解りやすい分別方法の説明会、または、“いきいきサロン”等で、ゴミの出し方ゲームなどを行い、体感してもらい、という方法もあると思います。

③クロスランドおやべ管理運営事業について

クロスランドおやべ敷地内に、クロスランドタワーがあります。そのタワー展望フロアより南側駐車スペースを見下ろしますと、今までは、レオナルド・ダ・ヴィンチの肖像をモザイク状にしたエントランスが見えました。しかし、現在、自動車のタイヤ跡などで、陰影も薄くなり、判別がしにくい状態です。ぜひ、修復を考慮して頂きたいと思います。ダ・ヴィンチミュージアムも併設し、タワーでは、好評のスイーツカフェに、市内外からも観光客が訪れ、憩いの場として親しまれています。

ぜひ、ダ・ヴィンチに関する観光資源を活用されて、高齢者を始め、小矢部市民の心安らぐオアシス、老若男女誰もが交流する場所となるための、観光客誘致・活性化に取り組まれるよう望みます。

一般質問

[発言者] 森川 時衣

[質問] 小矢部市民が生きがいをもち、自分らしく安心して住める、時代に対応した福祉のまちづくりについて

[要旨] ①「買い物弱者」とよばれる住民、高齢者の増加に伴う地域の体制作りについて

[答弁] 市長 桜井 森夫

買い物弱者とは、周辺に店舗がなく、交通手段もないため日常の買い物に困る状況に置かれている人を言います。

全国的に高齢化率の上昇、核家族化の進展、郊外型大型商業施設の進出が顕著になり、「買い物弱者」といわれる人達が増えていると言われております。

小矢部市におきましても、高齢化率は30%を超え、近い将来、3人に1人が高齢者という状況になろうとしております。ご指摘のとおり高齢者を支えるための地域における支援体制づくりは喫緊の課題であります。

高齢者の在宅生活を支えている事業といたしましては、介護保険等の制度だけでなく、高齢者等をサポートするケアネット活動が行われております。ケアネット活動とは、地区社会福祉協議会が支援を必要とする高齢者に適した援助を行うためのチーム編成を行って可能な範囲で援助をする活動であり、現在、市内全地区で取り組まれております。

また、小矢部市では、平成23年度に小矢部市社会福祉協議会に対し、高齢者の外出支援及び生活支援サービス用車両2台の購入に補助を行い、地域での福祉活動を支援しております。

また、食材の購入や調理等が困難な高齢者のみの世帯のうち希望される方に対して、夕食を届ける配食サービスを実施し、併せて安否確認も行っております。

今後も高齢者の生活に関する支援につきましては、現行の支援サービスの充実を図り、地域の関係機関や支援者の方々と連携し、自助・共助・公助を組み合わせた効果的な支援を検討し、実施して参りたいと考えております。

一方、移動販売等につきましては、現在、市内の事業者が独自に移動販売事業を実施しておられます。最近では、高齢者のみの世帯が増加しており、販売ルートの顧客から販売品目の増加について要望があるほか、家の修繕など各種サービスの相談が増えているとのことです。

このような現状を受けて、本年、小矢部市商工会津沢支部では、移動販売などに取り組んでいる事業者が中心となり、支部会員に呼びかけ、日用雑貨店、工務店、電気店、クリーニング店などの協力を得て、買い物や日常生活の困りごとの御用聞きを行う「買い物、生活支援プロジェクト」を試行的に実施されます。

小矢部市商工会津沢支部では、26年3月までの実績を踏まえ、利用者の意見等も聞いたうえで事業の継続について判断するとのことです。

本市といたしましては、移動販売事業の取り組みが本格的な事業として移行し、支援事業エリアの拡大や公共施設の利用の在り方も含め、小矢部市商工会とも協議してまいりたいと考えております。

[要旨] ②高齢者のリサイクルゴミ分別支援について

[答弁] 民生部長 林 和宏

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯においては、食の確保等とともに、ゴミ処理も課題のひとつであると認識しており、ご指摘のように、ゴミ出し、特に分別については、高齢者等で支援を必要とされる方々がいらっしゃるのではないかと考えております。

一般的には、高齢者等で支援を必要とされる方は、親族や地域の方々のご協力により、ゴミ出し、分別の対応がなされていますが、一部の方については、現在、地区の社会福祉協議会を中心とした生活をサポートするケアネット活動の活用や介護保険等の公的サービスによる支援を利用いただいております。

また、ご提案いただきました、高齢者の集まり等を活用し、ゴミ処理に関する情報や知識を効果的に提供する機会については、いきいきサロン等のメニューに加えていただくようお願いして参りたいと考えております。

なお、ケアネット活動を担う地域の支援者の確保も課題となっており、元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支えるしくみも必要であると考えております。

今後も、自助、共助、公助を組み合わせ、安心した生活が営めるよう、関係機関等との協働・連携体制を密にし、地域全体で支援に取り組んで参りたいと考えております

ごみの分別方法で分からないことがございましたら、お気軽に生活環境課にお問合せいただきたいと思います。

また、「家庭ごみの分別の仕方」というイラスト形式のポスターを生活環境課窓口で配布しておりますので、ご利用いただきたいと思います。

なお、解りやすい分別方法の説明会につきましては、自治会・老人クラブなどからのご要望がございましたら、随時対応させていただきますので、ご相談いただきたいと思います。

【要旨】 ③クロスランドおやべ管理運営事業について

【答弁】 教育次長 舟本 勇

平成6年にオープンしたクロスランドおやべは、19年が経過し、経年劣化等により改修等必要な施設や設備が多数見受けられます。ご指摘のタワー側駐車場エントランスのレオナルド・ダ・ヴィンチのモザイク肖像画についても、経年劣化が進んでいます。これらの箇所は、緊急度や優先度の高いものから順に修繕等の対応に取り組んでいるところであります。

また、ダ・ヴィンチテクノミュージアムは、科学技術の分野でも偉大な業績を残しているレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿とその模型に触れることができ、子どもたちの知的好奇心をくすぐる楽しい展示空間です。引き続き、ダ・ヴィンチテクノミュージアムを良好に運営し、「おやべ子ども発明発見塾」の活動とも併せて、子どもたちがより科学技術に対する興味を持てる環境づくりに努めてまいりたいと存じます。

また、空中カフェなどタワーを活用したイベントの実施や、これから建設する「美術活動拠点施設」を中心とする新たな美術イベントの開催等、子どもたちから高齢者までが楽しく訪れることができる交流環境づくりを進めてまいりたいと考えております。



議員提出議案第 1 号
平成 25 年 10 月 28 日

小矢部市女性議会議長 河合 千枝子 様

提出者	可部谷真由美
賛成者	中富 貴美子
	佐野 美樹子
	林 智子
	宮崎 三保子
	田悟 敏子
	稗田 佳美

小矢部市政に対する要望についての決議

上記の議案を別紙のとおり会議規則第 14 条の規定により、提案理由をつけ提出します。

提案理由

私たちは、女性の意識向上のため、第10回女性議会を開催し、女性の立場から行政を真剣に学び、議会ルール等も勉強いたしました。

今、男女の人権が等しく尊重され、女性が社会のいろいろな分野に参画する「男女共同参画社会」の実現が求められております。

このような時代に女性の視点と感覚を政治に反映して行かなければ社会の発展は望めないと思います。

この度、私たちが女性議会において学習し、要望する機会を与えられたのは、非常に得がたい体験でした。

今後、私たちは、更に研鑽を重ね実りのある小矢部市を目指し、ここに決議しようとするものであります。



小矢部市政に対する要望についての決議

私たちは、女性議会議員として市政を学んできました。

女性の視点からの課題や問題を生活の中から取り上げ、また、小矢部市民として様々な問題意識を持ち、更に将来へ展望していくように次の項目について要望いたします。

記

- 一、女性の社会的活動への積極的な支援
- 一、教育環境、子育て支援の充実
- 一、安全で安心して暮らせる、心通い合う街づくり
- 一、福祉のまちづくりの推進
- 一、緊急時の地域のネットワーク体制の構築
- 一、観光施策の推進
- 一、雇用の確保と定住促進施策の充実

以上決議する

賛 成 討 論

私は、議員提出議案第1号小矢部市に対する要望について、賛成の立場から討論致します。

要望致しました事項は、特に女性の視点からの要望でありますから、行政当局では、私達女性の意見を積極的に取り入れていただく事こそ、市民の生活環境の向上に寄与するものであり、女性の意識の向上のためにも、市政に対して要望していくことが必要な事であると確信致しております。

以上、私の賛成討論と致します。



第10回小矢部市女性議会

閉 会 式

日 時 平成25年10月28日(月)

本会議終了後

場 所 小矢部市役所 議場

1 開 会

2 会長あいさつ

小矢部市女性団体連絡協議会

会長 嶋 田 幸 恵

3 来賓あいさつ

市長あいさつ

小矢部市長

桜 井 森 夫

市議会議長あいさつ

小矢部市議会議長

中 村 重 樹

4 閉 会

第 10 回女性議会を終えて

1 産業建設常任委員会

佐野 美樹子

私は、更生保護婦人会より推薦していただいて、女性議員をさせていただきました。最初は、何もわからず、自分には大役すぎるのではと、内心困惑いたしました。

全員学習会や、産業建設常任委員会で、各担当課長の説明を詳しくお聞きし大切な小矢部市の予算の使われている様子が、よくわかりました。そして、市内の施設視察に参加させていただき、ただ建物だけを外から見ていた一市民の私には、本当に勉強になりました。その中で、もう少しこうしてもらえたらいいなとか、ここもどうなっているのだろう聞いてみたいと思えることが、委員会の皆さんの問から出てきました。

このような機会を得て知り合えた方と、小矢部市のことについて、お話できることは、本当に幸せでした。

感謝いたしております。そして、心よりお礼申し上げます。



2 民生文教常任委員会

辻 喜代子

「絶対に、いい経験だったと思うから」に乗せられ、不安や緊張そして知らない世界への期待感を持って始まった女性議会でした。小矢部市民となって40年、実は他市ばかりを羨んでいた情けない人間でした。

まず、市内施設視察で安心安全の防災センター、充実した教育環境に目を見張り、貴重な歴史の宝庫を回り、石動駅周辺整備にわくわくし、小矢部市の取り組みに誇らしい思いでいっぱいになりました。

こうして委員会が始まり、無駄口ひとつなく真剣に教育や高齢者問題に議論を重ね、納得のいく質問事項が仕上がったときは心からおつかれさまが出ました。ほんのしばらくでしたが、議長席に着く体験を与えていただき、私の忘れられない華やぎになったこと感謝いたしております。

終えた今は小矢部市が大好きになり、これからは小矢部市に誇りを持ち、住む喜びを伝えていくことが使命だと思います。お世話くださった皆様、ありがとうございました。



3 総務常任委員会

可部谷真由美

知人より女性議員になってもらえないかと頼まれました。仕事を辞め時間的に少し余裕があったこと。また、人との出会いを持ちたいなという単純な気持ちで引き受けたのですが、初日市役所に



行き当選証書を頂き初めてことの重大さに気付きました。

市役所で地方自治議会制度、市の財政等の勉強会、小矢部消防署にて防災の研修会、市内施設等の視察などに参加させていただき、小矢部市に嫁いで30年、市税もはらっているのに、小矢部市民なのに、自分の住んでいる町に対して無関心であったと実感しました。

なにより市役所内の議場にて何も知らなかったおぼさんが本会議に参加できたことは貴重な体験となりました。

今は事務局の皆様や委員のメンバーの方に恵まれ、無事に議員を終えることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。お世話になりました方々に心よりありがとうございました。

市長さんをはじめ関係者の皆さま、誠実な回答ありがとうございました。ただやはり、回答者の中に女性がいらっしやらないことが少し残念かな と思ったりしました。

4 総務常任委員会

河合 千枝子

私は小矢部市男女共同参画推進員の代表をさせていただきましたので、小矢部市女性団体連絡協議会の役員として、これまで何回かの女性議会の事務局をさせていただきました。

今回自分自身が初めて女性議員として選ばれ、議長の大役まで担うこととなり、慣れているとはいえ大変緊張いたしました。7月12日の組織議会、10月28日の本会議での一般質問等、無事に任務を終えることが出来大変嬉しく、多くの関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

特に第10回女性議員の皆様が各委員会で議論を重ねられ、大変立派な質問をして下さいました。その質問に真摯に答弁して下さいました桜井市長や関係部長の皆様、そしてしっかりお世話をして下さった女性団体の嶋田会長や役員の皆様、本当に有難うございました。

今後益々高齢化が進む地域の中で、自分も高齢者の仲間として、これらの経験を地域活動に活かしていきたいと思えます。



5 民生文教常任委員会

中富 貴美子

澄みきった空気と素晴らしい立山連峰が見える小矢部市に半世紀ぶりに戻り、定住することになりました。最初に出会った方の勧めで石動地区婦人会に入会し、その後、枝わかれのように沢山の「人」との財産が増える中、今回女性議会議員当選証書をいただき、民生文教常任委員会委員長として「未知の世界」に入りました。市制方針や、市行政など学習する機会が増える大変有意義な日々を過ごしてきました。また、市内各施設訪問先の快い対応や、市関係の皆様のご協力、ご指導いただいたことに深



く感謝し、女性議会本会議を迎えました。

当日は緊張感あふれるひと時でしたが、各委員会質問事項に対して市長自ら回答いただいたことには深く感銘を受けしっかり耳を傾けました。

貴重な経験をさせて頂いた女性団体に心よりお礼申し上げ一つの小さな出会いから大きな輪になり「未知の世界」から少し扉が開きました。今後も地域を支えるには女性の「力」が重要と思います。沢山の女性が立ち上がることを願い、みなさんの仲間になれたらと思います。ありがとうございました。

6 民生文教常任委員会

宮崎 三保子

今回の機会は、私にとって得難い経験となりました。議場での緊張感、7回に及んだ委員会での意見交換、市内施設視察での新たな発見、多岐にわたる説明に思わずため息をついた学習会など。短い期間ではありましたが、多くの方々に出会い、たくさんの方のことを学びました。



ある広報誌に、市民と大衆についての記述がありました。「市民とは自律性を持ち公共の問題に積極的に関わる人々、大衆とは他律的で公共の問題に無関心な人々」だそうです。

私はこれまで「大衆」でしたが、今回の経験により、少しではありますが「市民」に近づいたかなと思います。問題意識を持つことの大切さを知りました。

模擬議会とはいえ、質問に対して市長さんをはじめ市当局から丁寧な答弁をいただきました。今後の市政に反映されることを期待しております。また議場の傍聴席には、大勢の方々がおられ、関心の高さに驚くとともに大変心強く思いました。

お世話くださったみなさまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

7 産業建設常任委員会

成田 雅子

今回、商工会女性部より推薦を受けて小矢部市女性議員を受けました。

何もわからず不安でいっぱいでしたが、無事本議会を終えることが出来ほっとしています。

市長からの市政方針説明を聞き、市職員の方から予算の説明や市内施設の視察、委員会メンバーでの学習会を重ね、小矢部市政を学習し、安全で安心して暮らせる街づくりに女性の視点からの意見を交わしました。

貴重な体験を無駄にせず少しでも役立たせていただきたいと思います。

わたしは小矢部に生まれこれからも暮らしてゆく郷土を愛し、高齢者に優しく、若者が元気に働く、もっと魅力あるまちづくりに協力してま



いりたいと思います。

先輩議員の方々からもたくさん声をかけていただき、皆さんよい経験に繋がっているのだなと思いました。

議会事務局の皆様大変お世話になり有難うございました。

8 総務常任委員会

中井 由美子

女性議会議員になり、市役所にて女性団体連絡協議会長より当選証書をいただいた時に周りを見れば立派な方ばかりで、場違いなところに足を踏み入れた感が強く不安でいっぱいになりました。

それからは、市の担当者から各分野の業務内容の説明を受け、市内施設視察をし、小矢部市の現状を知る中で疑問・課題が見えてきました。それらを常任委員会で議論を重ね委員の皆様とアドバイザーの方の助言をいただき質問内容をまとめました。そして本会議を終了し、安堵の思いです。

未知の世界に不安を抱いて始まった議員活動は皆様とともに学習することで小矢部市をあらためて見なおすきっかけとなりました。これからも市民として市政に関心を持ち続けていきたいものです。



9 総務常任委員会

林 智子

男女共同参画推進員より推薦を受け、女性議員を受けることとなりました。組織委員会にて、総務常任委員に任命され、委員長をすることになり不安で、顔面蒼白になったのを今も、はっきりと覚えております。

市政方針・予算概要の説明を受ける中で、市政というものを身近に感じる自分がありました。委員会のメンバーで、何回も議論を重ね、意見集約をしたり、宮島峡に出かけ、アウトレットの造成に思いをはせながら、とても楽しい日々を過ごすことが出来、自分としては、いい経験になりました。

一人の女性として、市政に決して無関心ではなく、社会参画を心がけ、日々過ごしてまいりたいと思います。

本会議における各委員会のすばらしい質疑提案に多くのパワーを頂きました。これを一つの出発点とし地域活動等に積極的に参加し、出会いの場を広げてまいります。どうも、ありがとうございました。



10 産業建設常任委員会

多田 麗子

女性議会の話をお聞きし、よくわからないままお受けしたのですが、7月12日の初顔あわせでの自己紹介で、各方面で活躍していらっしゃる方ばかりなので、私で大丈夫なのか大変不安を感じま



した。

それでも、常任委員会で市の市職員の方より、予算の説明をお聞きし、そして市内の施設を視察させていただくうちに、女性議員なのだと自覚を強めました。視察した施設の職員の方が、一生懸命取り組んでいらっしゃる姿に感動し、中には知らなかった施設もあり、住んでいるもの自身が小矢部市を好きになり、知ろうとしなければいけないなど思いました。

本会議に向け、何度か委員会を開き質問内容を検討し、事務局の方や、委員会の皆さんのおかげで、なんとか一般質問を終える事ができました。また、市長さんをはじめ、担当課の方より丁寧な答弁をしていただき、大変感激致しました。貴重な体験をさせていただいた 109 日間でした。どうも有難うございました。

11 総務常任委員会

木屋 千恵子

第 10 回女性議会の会期 109 日間に貴重な経験をさせていただきました。

当選証書付与式から始まり、全員学習会では地方自治・議会制度・市の財政等について学び、委員会を経て、市内施設視察では見識を高めることができました。また、女性議会照会書の提出、委員会の傍聴、女性議員の委員会独自の視察、一般質問に向けた意見交換を何度も行いました。市政について学習すると質問が無くなる、の繰り返しでしたが、最後には盛りだくさんな質問になってしまいました。

女性議会の最終日、議場に入ると傍聴席には大勢の女性が詰めていました。先輩女性議員らに応援していただいて緊張は高まりました。多くの質問に丁寧にお答えいただき、桜井市長はじめ市当局の皆様には感謝いたします。今回の貴重な経験と出会いを大切に地域活動に携わっていきたいと思います。

お世話いただいた女性団体連絡協議会の皆様、小矢部市関係の皆様にお礼申し上げます。



12 産業建設常任委員会

田悟 敏子

女性議会議員！他人事の様な話に戸惑いながら引き受けました。

日頃お世話になっている、産業建設委員会に選出され、5名の常任委員が選ばれました。私にとって産業建設委員は、一番近くに感じていたので、安堵いたしました。

市長の市政方針を聞き、全員学習会が始まりました。財政の状況、予算などの説明を受けました。そして市内の施設の視察をした時は、今まで、余りにも無関心だった自分を反省しました。各委員会での学習会、



小矢部市のすばらしい所、他の市町村より優れている所。反対に改革出来る所等。アドバイザーの助言を聞いての学習会。

いよいよ本議会当日、一般質問に丁寧に返答して下さる市長さん、副市長さん、各部長さんや次長さんなど、有難うございました。

109日間と短い期間でしたが、毎日充実した日々でした。一緒に活動させていただいた事で、人生の友が又、増えました。

女性議会議員は終わりますが、小矢部市を考える日々はこれからも続き、すばらしい小矢部市へ向かって貢献したいと思っています。

この様な貴重な経験をさせていただき、感謝いたしております。

13 民生文教常任委員会

森川 時衣

小矢部市に生まれ育ち、同地で勤務して生活、消防女性分団員としても活動しておりますが、女性議員になって、小矢部市のことは、何にも知らなかったことに愕然としました。予算や、各施設の内容等々、数々の研修や会合、討論を重ねて学習を進めていくうちに、少しずつ小矢部市について愛着が沸き、もっと、小矢部市が活性化するためには、どうすれば良いのだろうと考えるようになりました。

そして今身近で困っていること、高齢者の買い物難民状態であったり、ごみ出し問題であったりを質問提議することに真剣に取り組みました。

本会議では、市長を始め、各担当部課長さんが、まっすぐ私を見つめ返し、答弁に立って下さった事は、生涯に一度の感慨深いものがあり、今後の市政に対して、私たちも真剣になろうと決意いたしました。

女性議員活動を通して、たくさんの方々とは知り合えた事、このような機会を作って下さいました各関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



14 総務常任委員会

稗田 佳美

素晴らしい方々との出会い。それは、私にとってとても貴重な時間でした。市政に関しても何も知らない事ばかりで、このような私が女性議員のメンバーとして参加させて頂くだけでも全てが勉強に成った日々でした。訳も判らず総務常任委員として、色々な話し合いや会合に参加させていただきましたが、女性議員のメンバーの皆さんは真剣に小矢部市の繁栄発展を願っておられるかたばかりです。

こんなにも真剣に小矢部市の繁栄発展を願い、愛しておられる方々の姿を見るに付けて私自身も大変感化され、どうしたら小矢部市民の一人としてお役に立てるのか、出来る事は無いかと真剣に考えるように成りました。



女性からの視点や一般市民としての視点、要望や意見など友人や知人に聞き、魅力的な小矢部市を共に目指す為に自分たちが出来ることなど数多く話し合いました。この経験を生かし、少しでもお役に立てて行けたらと思います。有り難うございます。

15 民生文教常任委員会

福永 則子

女性議員として、私にとりましては大変得難い体験でした。各担当課長より、小矢部市の財政状況など説明を受け学びました。

市政に対して、いち市民として振り返ってみますと、とても意識不足だったように思います。

それぞれの問題に真剣に取り組み、素晴らしい委員の方々に出会えたこと、学習できる機会があったと思います。

市内施設視察では、多くの説明を通して学びました。また、議場では臨時議長を体験させていただき、貴重な大役を経験しました。

これからも活気ある小矢部市に発展するよう少しでも協力できればと思います。

お世話していただいた関係者の皆様方心よりお礼申し上げます。



16 産業建設常任委員会

長田 昌子

今回、第10同市女性議会(模擬)に参加出来、産業建設常任委員として、何も分からなかった市政を皆と共に勉強してきました。

初めはすごく不安があり、何度もお断り致しましたが、女性ドライバーの方の熱心なお勧めで引き受けました。短い期間でしたが、なんと愉しかったでしょうか。たくさんの仲間も出来ました。

女性の目線から色々勉強、施設見学等させていただき、本当に有難うございました。永い人生に楽しい思い出の一ページが出来ました。

女性の皆様、もっと市政や議会に目を開いて見ませんか。



桜井市長、中村市議会議長、女性団体連絡協議会事務局と女性議員



民生文教常任委員会及び事務局

産業建設常任委員会及び事務局



総務常任委員会及び事務局



教育や男女参画を質問

小矢部市女性議会最終日

第10回小矢部市女性議会(富山新聞社後援)は最終日の28日、市役所の議場で本会議を開いた。中心に一般質問を行った。

この後「女性の社会的活動への積極的な支援」など7項目の要望を決議し、閉会した。女性議会は7月12日にスタートし、委員会審議や視察、学習会で市政への理解を深めた。

は、にぎわいの創出や商業の振興を図る千載一遇の好機と考えている」と述べ、支援策の検討を進めていると説明。高畠進二副市長、日光久悦教育長も質問に答えた。



大勢の女性傍聴者が見守る中、市政の課題について質問する女性議員—小矢部市役所議場

H25. 10. 29 富山新聞

H25. 10. 29 北日本新聞

中心市街地活性化や人口減少への対策などについて議論した小矢部市女性議会



街活性化策を問う

小矢部市女性議会 6議員が提案・要望

第10回小矢部市女性議会(河合千枝子議長)は28日、市議会議場で本会議を開き、6議員が男女共同参画社会実現への取り組み、中心市街地活性化、人口減少への対策などについて市にただした。北日本新聞社後援。

宮崎三保子、中井由美子、多田麗子、木屋千恵子、田悟敏子、森川時衣の各氏が一般質問した。行政委員会・審議会への女性の登用率向上、空き店舗活用の推進、Uターン就職の支援などを提案・要望した。

女性議会は市女性団体連絡協会(鳴田幸恵会長)が2年に1度開催。7月に開会し、議員16人が総務、民生文教、産業建設の3常任委員会に分かれて視察や審議を重ねてきた。

女性の社会的活動への積極的支援、教育環境・子育て支援の

小矢部市女性団体連絡協議会平成 25 年度役員名簿

(第 10 回女性議会事務局)

役職	担当委員会	氏名
会長		嶋田幸恵
副会長	総務	飛田久子
〃	民生文教	水牧美耶子
〃	総務	西野順子
書記	産業建設	新谷幸子
〃	産業建設	高城満里子
会計	産業建設	坪野 睦
〃	民生文教	阿尾多美

平成 26 年 3 月発行

お問合せ先

9 3 2 - 8 6 1 1 富山県小矢部市本町 1 番 1 号

小矢部市市民協働課

(小矢部市女性団体連絡協議会事務局)

電話 0766-67-1760 FAX 0766-67-5520